

年間第十主日

2018.6.10

マルコ 3・20-35

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

「はっきり言うておく。人の子らが犯す罪やどんな冒瀆のことばも、すべて赦される。しかし、聖霊を冒瀆する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う」。今日の福音の中心に響いている御ことばです。イエスはここで聖霊について一般的に語っておられるのではありません。この御ことばは、律法学者たちとの論争の中で語られたものです。イエスのうちに働いている力によって悪霊が追い出されていることを認めざるをえなかった律法学者たちは、あれは悪霊の頭、ベルゼブルの力によるものだと言っていたのです。これに対して、イエスはたとえを用いて反論し、「はっきり言うておく」と言われて、ご自分のうちに働いているのは聖霊の力なのだと言われておられるのです。イエスのうちに働く聖霊によって、悪霊の支配のもとにあるこの世界は罪から解放され、神の支配、神の国がこの世界にもたらされるのです。

十字架の死を越えて復活されたイエスが、「聖霊を受けなさい」と言われて、弟子たちに息を吹きかけてくださったとき、イエスのこのことばによって、イエスのうちに働いていた聖霊は弟子たちの中にも息づき始めました。「あなたが罪をゆるせば、その罪はゆるされ、あなたがたがゆるさなければその罪はゆるされないまま残る。」と言われてイエスが弟子たちを遣わされたとき以来、弟子たちの宣教活動によって、この世界を支配していた悪の力は追い払われ、聖霊に基づく新しい世界、神の国が到来したのです。

今日の福音に語られていることは、今わたしたちが信仰のうちに経験していることをも指し示しています。聖霊降臨の日以来、イエスの弟子たち注がれた聖霊は、弟子たちの宣教を通して、イエス・キリストへの信仰に導かれた人々にも注がれ、イエス・キリストを主と信じる人々の教会が誕生しました。わたしたちはその教会に受け継がれて来た信仰を受け入れ、洗礼の秘跡によって罪をゆるされ、聖霊の恵みによって神の子らとされたのです。

今日もこのミサにおいて、わたしたちはこのことへの感謝のうちに、信仰を新たにしています。このミサの中で、わたしたちはイエスの聖体の食卓を囲んで、ともにイエスのいのちに与っています。そのようなわたしたちをご覧になって、このミサの中おられるイエスは、今日の福音の終わりに語られているあの時のように、「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟姉妹がいる」と言うてくださるのです。今日もこの梅雨の朝このミサのために集っているわた

私たちは、イエスの目からごらんになると、神の御心を行う者たちと映っているのです。そのようなイエスの眼差しを意識して、肉の絆を越えて聖霊によって結ばれている兄弟姉妹として、お互いへの敬意と聖霊なる神への賛美のうちに、わたしたちの絆の中心であるイエスの与えてくださるいのちの糧に近づかせていただきましょう。